

STYLING

VOL.109
soil
SINCE2009~

●【ソイル】

Photo/Tomoaki Tsuruda(WPP)

Text/Teruhiko Doi

MONO



昔ながらの日本家屋に住む外国人の間では「日本の家は寒い」という認識があるようだが、それはそもそも夏を快適にするための建築が日本の家づくりの基本だからである。



日本三大随筆として知られる徒然草に、次のような一文がある。『家の作りやうは夏をむねとすべし』。現代風に言い換えると、『夏が快適な家作りを心がけよ』という教えである。この文から判るように700年ほど前の日本人でも高温多湿の夏の気候は耐え難いものであったようだ。面白いのは、その後、『冬は何とか我慢できる』という意味の文章が続いていること。いずれにしても湿度との戦いは日本という国の歴史の中でずっと継続中の文化。床下に風を通す建築の常識、吸湿効果のある三和土や壁、布団の天日干しなどなど湿度対策のための構造や資材選び、生活スタイルまで湿度を制する者が、快適な暮らしを手に入れるのは絶対的真理。そんな日本の建築に精通した、金沢で江戸の文政年間から続く左官業を営む会社が、吸湿性の高い珪藻土を使った、生活アイテム『soil』を開発。いま大きな注目を集めている。

パスタメジャーコンテナ

容器がガラス、蓋が珪藻土で出来たパスタ用の調湿容器。蓋の裏側に大・小の凹みがあり、その凹みを利用して1人前、2人前のパスタを簡単に計量することが出来る。長期保存も可能になるし、なかなかオシャレなアイデアである。価格8424円



ナイフトレー

使用後にちゃんと水切りをしても、残った水分で錆びるのが鉄の包丁。錆びないステンレスでもカビやくもりが目立つことも。水洗いした包丁を置くだけで、どんどん水分が吸着されるのが嬉しい。価格4860円



産地によって色が違うのも珪藻土の特長。赤系の土は石川県産。成型に左官の技が活かされてsoilの製品が生まれる。



原料となる珪藻土。実際に手に取ってみると判るが、非常に軽い。この原料に水を加えて練ったものを成型していくのだ。



ワインリップキャッチー

ボトルからワインを注ぐと気になる液垂れ。ペーパーナプキンを巻いて対処するのもあまり美しくない。ということで、珪藻土で吸着してしまうという新しい発想の製品。世界のワイン文化における定番化を目指す。価格1944円



アクセサリートレー

上の写真は、アクセサリートレーの上にリングホルダーを乗せて撮影。価格2376円



リングホルダー

シルバーのアクセサリを持つ人は、この製品の良さが理解できるはず。酸化の原因は手の汗などによる湿度が大きい。帰宅直後や就寝前に大切なリングを乾燥した、いい状態に保ってくれるアイデアに乾杯！ 価格1080円



パフトレー

汗を吸って痛んだパフを頻繁に買い替える人は必見。使用後のパフを置いておくと、ひと晩でパフがいい状態に。使い捨て感覚の安物ではなく、高級化粧品のパフ利用者には魅力的。洗い出し工法で製造。[S]価格1944円 [M]価格2484円

当初注目を集めた製品は「バスマット」だったが、独自の着眼点を活かしたさまざまな製品開発を行い、現在もなお、新しい製品が次々と生まれている。2017年度『soil』の新製品もまた、欲しくなる魅力に溢れている！



ブランド名の『soil』は土や泥という意味。シックハウス症候群や、気密性の高い住まいの湿度対策として、以前から珪藻土を使った壁の有用性が謳われていたが、同社はその珪藻土という素材をさらに具体的な製品としてスタイリングした、最初のブランド。

soil



国内では秋田県北秋田、石川県能登地方で産出。岡山や大分、鹿児島でも淡水産珪藻土が産出。

珪藻土とは？
古代のフランクトンの死骸が堆積してできた堆積岩のこと。別名「ダイアトマイト」と呼ばれる。藻類の一種であるフランクトン。珪藻の殻は二酸化ケイ素で構成されており、これが珪藻土の主成分となり、世界中で産出されている。珪藻の殻は多孔質で、体積当たりの重さは普通の土や粘土に比べて非常に軽いのが特長。耐火性や断熱性に優れているので、建材としての利用も早くから行われていた。また、水分や油分を大量に保持することが可能であり、その性質を利用して保湿剤として使われていた。煮炊き用の七輪も珪藻土層をそのまま利用したもの。意外に知られていないが、その昔はビスケットの増量材やビールの濾過材としても利用されていたほどで、実際に食することも可能。アイヌの人々が実際に食用土として利用していた記録も残されている。ダイナマイトを発明したノーベルも、珪藻土を使ってニトログリセリンを安定させていた。

MONO

丸谷焼などに代表されるように、金沢は華燭のデザインが伝統としてある。「soil」はその伝統の真逆を行くシンプルな引き算のデザインが特長。



江戸時代から続く石動半平の孫として生まれた石動半七は、「コテの天才」と称された。同社の創業者だ。隣は結婚当時の妻ソヤ。



創業時代の印はんてん



イスルギの創業半纏。職人たちの半纏服だ。

インターネット検索で珪藻土バスマットと打ち込んでみると、山ほどの製品がヒットする。中には安価な東アジア製も多いが、本物と呼べるのは最初にこの製品を世に送り出した「soil」だけである。

なぜならば、同社の製品はかさ増しのための余計な素材を加えていない、本物の珪藻土を使用しているからだ。「soil」がデビューしたのは2009年のインテリア&ライフスタイル展。元々は石川県のデザインセンターが当時流行していた泥団子に目を付けて、その発想でモノ作りをしようと、金沢市で左官業を営む株式会社イスルギと、デザイナーとの共同企画でスタートしたのが始まり。当時、同社の専務だった石動博一氏

は、需要が減る一方の左官業に危機感を覚えており、左官の技術を活かした壁見本を左官アートとして商品化し展開していたが、かなりの苦戦を強いられていた。そんなとき、同社の技術を知ったデザイン企画会社のアッシュコンセプトが、水を吸う材料である珪藻土に興味を持ち、デザイン指導を行って誕生したのが「soil」だったのである。

文政年間の左官職人、石動半平をルーツとする「イスルギ」は、金沢で法人化してから63年の歴史を持つ名門。金沢城のなまこ壁や、姫路城の平成の大改修も手がけている。徒弟制度で連続と続いてきた左官職人を早くから社員として抱え、左官技術を教える専門の学校を設立した歴史もある。

ただ、時代が進むにつれて大手ゼネコンは左官の腕よりも単価と納期という面が強くなった。「soil」はそんな時代に、左官の需要を創出するため誕生したのである。

石動博一氏とアッシュコンセプトが着目したのは、湿気の多い日本の生活に根差した新しいデザイン雑貨の開発だった。湿気を吸収する珪藻土を、伝統の左官技術で形成し、デザインでフラッシュアップするという方法。科学的な検証を行えば、湿度を0%にするわけではない。しかし、限りなく湿気を吸着する素材をピンポイントの商開発で製品化したところ、その「調湿」という機能が現代の生活者に受け入れられた。

最初に作られた珪藻土バスマットは当初はなかなか注目されなかったが、テレビの情報番組で取り上げられてから状況が一変。大変



製品のサーフェスを左右する左官職人のコテ。作業の場所によってサイズや形が異なるので何十種類もある。



「soil」の工房内はほとんど女性の職人さん。近隣の主婦層を中心に雇用を創出し、一部の製品は社会福祉法人に属する障がい者が担当する部門も。女性ならではの丁寧な作業が品質の安定につながる。熟練するとひとりが最初から最後まで製造を任される。労働時間に縛られた時給制ではなく、内職制なので、頑張れば頑張るほど収入アップになるというシステムは好評だという。

珪藻土で作られた「コチャサジ」。湿気を嫌う紅茶葉などに最適。価格1404円



↑グリーンカラーの「コチャサジ」→茶筒と一緒に入れておけば、茶葉の乾燥を保つ。価格1296円

なヒット商品となった。「soil」の製品には江戸時代から続く左官の歴史が見え隠れする。そもそも左官職人は、「通気」の大切さを知っており、その発想や技術が同社の製品に活かされているのである。したがって、珪藻土以外の素材を混ぜる場合も、きちんとした左官目線の理由がある。形だけ真似た類似品とはそこが決定的に違っているの

である。ちなみに「soil」製品の取り扱いには百貨店、専門店、デザインショップのみ。ホームセンターやTVショッピング、ディスプレイアウト店などでは売られていない。モノとしての誠実さが伝わる「soil」の珪藻土アイテム。メイドインジャパンには信頼すべき理由が存在する。

世界遺産白鷺城の漆喰壁を修復

「コテの天才、石動半七が「石動屋」から独立開業した「石動左官工業所」。大正時代に日本生命金沢支社の美術建築を手掛けてその名を轟かせ、戦後は全国に先駆けて職業訓練校を開校。高度経済成長期は、「技術の石動」と呼ばれ、職人たちの中から国家顕彰される職人を何人も輩出。

大阪万博ではキューバ、ハワイ、タイ、チリ、インドネシアの各館を筆頭に松下館、三井グループ館、OECD館を施工した。近年では金沢城、石川県立歴史博物館、石川県庁、京都駅ビル、それにUSJや大阪ドームの施工も行っている。大阪城天守閣「平成の大改修」、先日

終わったばかりの世界遺産姫路城の大改修は、他には依頼できないイスルギならではの技術と、職人への信頼があればこそその仕事だった。白鷺城（姫路城）の屋根や壁の美しさ、仕上げの素晴らしさは世界的な評価を得ている。「soil」のモノ作りの原点である。



金沢城の美しい「なまこ壁」は、来訪者の目を奪うほどの美しさ。



↑「soil」が生まれる前に同社が企画していた左官アート。本来は壁見本としてあったものを額装してアート作品にした。←キットカットのようなスタイルの「ドライングブロックミニ」。塩と一緒に。価格1188円。

STYLING

MONO

「soil」に関するお問い合わせは
 @soil ☎076-247-0346
<http://soil-isurugi.jp>
 *ご購入はmonoショップで
www.monoshop.co.jp



→株式会社soil代表取締役社長石動博一氏。金沢城で撮影。



↓イスルギ本社soilも同所にある。



コースター ラージ2P
 スクエア/ガラスについた水分を吸収。テーブルの上の気になる水たまりともこれでサヨナラ。スクエアタイプのデザイン。価格1944円(4枚同色セット)



バスマット ラージ

『soil』というブランドの代名詞的存在にして大ヒット商品。他の類似品と異なり、その吸湿力は圧倒的。また、汚れたりしても、紙やすりで磨けば元の状態に復元。長く使える名品。価格 1万6200円

モスキートコイルケース

編集部イチオン！ 耐熱性のある珪藻土なので、蚊取り線香のある夏を優雅に演出してくれる。サイズ、スタイリング共に素晴らしい出来ばえの製品。来客用のお部屋にも最適だ。価格 1万584円



コースター ラージ2Pサークル

上のスクエア型と同じコースター。こちらは丸型のスタイリング。何もないシンプルなサーフェスだが、その吸湿の機能は本当に素晴らしい。価格1944円(4枚同色セット)

ドラインブロック



塩やパウダー、食材などが保存された容器の中を常に調湿。容器の口径に合わせて最適なサイズをチョイス。チョコレートみたいなデザインが可愛い。ドラインブロック価格1080円、ドラインブロックmini価格1188円、ドラインブロックLarge価格1296円



ソープディッシュ フォーバス

常に濡れている浴室内で使用できるように珪藻土にセメントをオリジナル配合して耐久性をアップ。伝統技法の“洗い出し”で、他では見られない独特のサーフェスを実現。石鹸の乾燥を促進する。価格2268円